

人が生きて老いてゆく先には、
必ず死と別れがあります。

でも人生の最終章は悲しいだけではありません。

お互いを思いやり、かわす笑顔もありました。

今回もまた、誰もが自分のこととして

感じてもらえる物語になったと思います。

信友直子 (監督・撮影・ひとり娘)

ロコミが広がり異例のロングランになった
『ぼけますから、よろしくお願いします。』(18)

あれから4年。90代夫婦の愛の形を描いた感動の物語がふたたび始まる。

本作では前作をひも解きながらその後の夫婦の物語を描く。老老介護、認知症、看取り。日本全体が抱える高齢化社会のリアルな問題をありのままに、かつ、時にユーモラスに緩っていく。認知症とともに生きることの大変さや家族の苦勞に共感する一方で、こんな風に生きられたらと憧れを抱かせてくれるような夫婦の姿があった。

広島県呉市。信友直子監督が描くのは年老いた自らの父と母。アルツハイマー型認知症を発症した母の症状が進むにつれ、父は95歳にして人生で初めて家事を覚え、妻を支えている。現実を丹念に見つめた前作『ぼけますから、よろしくお願いします。』は、令和元年度文化庁映画賞・文化記録映画大賞、キネマ旬報ベスト10文化映画3位、ぴあ映画の初日満足度では1位になるなど高い評価を得た。



東京で働くひとり娘の「私」(監督・信友直子)は広島県呉市に暮らす両親を1作目完成後も撮り続けた——



©2022『ぼけますから、よろしくお願いします。 おかえりお母さん』製作委員会



2018年、父は家事全般を取り仕切れるまでになり日々奮闘しているが、母の認知症はさらに進行し、ついに脳梗塞を発症、入院生活が始まる。外出時には手押し車が欠かせない父だったが、毎日1時間かけて面会に行き、母を励まし続け、いつか母が帰ってくるためのと98歳にして筋トレまで始め周囲を驚かせる。しかし2020年春には新型コロナウイルスが猛威をふるい面会すらままならなくなる。



ぼけますから、
よろしくお願いします。
～おかえりお母さん～



監督・撮影・語り：信友直子 プロデューサー：濱西 大島新 堀治樹 制作プロデューサー：稲峯友紀子 編集：目良田健 撮影：南幸男 河合輝久
音響効果：金田幹子 ライン編集：池田現 整容：高永幸一 制作プロダクション：スタッフラビ 制作：フジテレビ ネットゲン 関西テレビ 信友家 配給：堂信：アンプラド
© 2022『ぼけますから、よろしくお願いします。～おかえりお母さん～』製作委員会 2022年/日本/ドキュメンタリー/H10分/ビスタ/2.0ch

2024年4月29日(月)

〈開場13:00/上映時間102分〉

上映 13:30～15:20

オンライン

講演 15:30～16:00

大麻公民館・えぼあホール

(江別市大麻中町26-7)

前売一律 1,000円(一般当日 1,200円)

【チケット取扱】

○えぼあホール会場の大麻公民館 ○野幌公民館

○中央公民館コミュニティセンター

○ドラマシアターども ○市民交流プラザぶらっと

【ご予約・問合せ先】

080-1895-2841(のむら)

090-5079-8366(さとう)

090-5958-1876(よしの)

主催：『ぼけますからよろしくお願いします～おかえりお母さん』を江別市にて上映する会 共催：着付けサークルつむぎ/江別陶芸会 後援：江別市教育委員会/江別市社会福祉協議会